

# 社会科学習指導案

日 時 平成26年10月8日(金) 6校時  
場 所 宿戸中学校 1年生教室  
学 級 1年生(男子13名 女子14名 計27名)  
指導者 教諭 大西 康

## 1 単元名 第2章 「中世の日本と世界」・世界の動きと武家政治の始まり

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領の大項目(3)「中世の日本」の中項目アにあたる。この単元では、「鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家社会の特色を考えさせ、武士が台頭して、武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。」ことをねらいとしている。

中世の日本と世界においては、武士が起こり平氏政権を経て、鎌倉幕府が成立することで、将軍と御家人の土地を仲立ちとした主従関係(封建制度)が確立された。そしてこの封建制度を基盤とした社会が中世のみならず、近世までの約700年近くの間続いたことで、現在に続く日本独自の社会や文化の土台が形成されることになったといえる。

それ故に、本単元で武家政治の始まりを扱うことは、中世の特色などを、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けるために欠かすことのできないものであると同時に、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる上で重要であると考えている。

#### (2) 生徒観

生徒達は、これまでに歴史的分野において歴史のとらえ方、古代までの日本について学習してきた。前単元の貴族社会の発展では、律令国家が確立したのちの奈良時代、平安時代について、貴族による政治や遣唐使がもたらした大陸の文化の影響、その後の日本独自の文化の発展などを様々な資料を活用し理解させながら、単元末には習得した知識をもとに、歴史的特色を大観し表現する学習活動を行ってきた。しかし、資料から読み取った事実をもとに考察すること、根拠をはっきりとあげて表現する活動などについては不得手な生徒も多い。

また、事前に行った、中世の日本(鎌倉時代)についてのアンケートの結果は、次の通りであり、既習事項である用語などの定着に不十分な点が見られる。

No.	設 問	正答率(正答人数)
①	武士とは、どのような人たちでしたか。 (領地を守るために戦うようになった農民、豪族)	29.6%(8/27人)
②	鎌倉幕府をひらいた人物は誰ですか。 (源頼朝)	14.8%(4/27人)

③	鎌倉時代について、あなたが知っていることをあげなさい。	22、2% (6/27人) (鎌倉時代の出来事について正確な記述があれば正解とした)
④	鎌倉時代のことで、あなたが特に学習したい事は何ですか。	武士の生活、幕府のおこり、活躍した人物、幕府の終焉、等。

そこで、本単元の指導にあたっては、小学校での既習事項である用語などを確実に身に付けさせること、さらに、資料の読解を中心とする言語活動をより充実させることで、資料活用の技能及び思考力・判断力・表現力を育てていくことが課題であると考え。

### (3) 指導観

上記の実態を踏まえ、本単元の指導にあたっては、小学校での既習事項も丁寧に扱いながら、中世の日本の歴史的な特色をとらえさせるために、「武家による政権はどのように成立して支配を全国へ広げていったのか」という単元を貫く学習課題を設定する。この学習課題を解決するために、武士の起こり、平氏政権の誕生、鎌倉幕府の成立、承久の乱とその後の北条氏の執権政治などを通して、武士が台頭し、やがて、「主従の結びつきや、武力を背景にして」東国に武家による政権が成立し、その後、支配が全国に広がっていくことなど、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせたい。

また、指導の手立てとして、視聴覚機器を有効に活用し、ユニバーサルデザインの視点から、誰にでも分かりやすい資料提示をおこなうとともに、複数の資料を提示し、読み取る活動を取り入れる。さらに、少人数グループ(3～4人)による共同思考や討議活動を充実させ、それぞれの意見や考えを表現する言語活動の場を設け、様々な見方や考え方を共有する機会を設定することで、自分の考えを深め、歴史的な事象をより多面的・多角的に考察するようにさせる。このような学習活動を通じて、資料活用の技能および思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

## 3 単元の目標

- (1) 中世の歴史的な事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の文化遺産を尊重しようとする。

[社会的な事象への関心・意欲・態度]

- (2) 中世の歴史的な事象から課題を見だし、中世の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。

[社会的な思考・判断・表現]

- (3) 年表や歴史地図、映像など中世に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。

[資料活用の技能]

- (4) 中世の特色などを、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けることができる。

[社会的な事象についての知識・理解]

#### 4 単元の指導・評価計画

学習内容	時数	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
10～13世紀ごろの世界と日本	1	『東方見聞録』や地図をながめながら、13世紀ごろの世界の様子に関心を高め、宋・高麗から日本にもたらされた文化や、モンゴル帝国の広がりや東西交流の様子について意欲的に調べようとしている。		宋・元や高麗との交流や貿易により、日本に本もたらされた文化や学問について、本文や資料から読み取って整理している。	
院政と平氏政権	1		絵巻物に描かれた戦いの場面をもとに、武士が地位を高めた理由について朝廷との関連をふまえて考察し、説明している。		平氏が武士として初めて政権を握ったことや、平氏政権は広大な公領や荘園の支配を基盤にしていたこと、さらに貴族や武士たちの反発の高まりから、源平の争いによって平氏が滅亡したことを理解している。
武家政治の成立と封建制度	1 (本時)		武家政権を確立するために頼朝がつくったしくみや行った政策を、平氏の政治とも比較して多角的に考察している。		封建制度のしくみについて理解しており、自分の言葉で説明できる。
承久の乱と武家政治の広まり	1	「北条氏追討の命令」と「北条政子の訴え」を読みながら、朝廷と幕府の勢力関係や、将軍と御家人の関係について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。		「鎌倉幕府のしくみ」の図や「承久の乱後の動き」の地図、「御成敗式目」の資料を活用し、幕府の支配が西国に広がり、武家政治が安定していった理由を読み取っている。	
新しい仏教と鎌倉文化	1			「東大寺南大門」や「金剛力士像」の写真を観察し、既習の時代の文化と比較しながら表にまとめている。	鎌倉仏教や文化の特色について理解するとともに、農業技術や手工業・商業の発達とそれにとまなう生活の向上について理解している。

## 5 本時について

### (1) 目標

- ① 武家政権を確立させるために鎌倉幕府がつくったしくみや政策を、平氏の政治とも比較して多角的・多面的に考察することができる。

[社会的な思考・判断・表現]

- ② 封建制度のしくみについて理解することができる。

[社会的事象についての知識・理解]

### (2) 評価規準

	評価規準	支援を要する生徒への手立て
社会的な思考・判断・表現	武家政権を確立させるために頼朝がつくったしくみや行った政策を、平氏の政治とも比較して多角的に考察している。	清盛の政治、鎌倉幕府の仕組み、頼朝の設置した守護・地頭に関連する視覚資料等、さらにキーワード等を提示し援助する。
社会的事象についての知識・理解	封建制度のしくみについて理解しており、自分の言葉で表現している。	封建制度を簡単な図にして提示し、理解の援助にする。 キーワードを提示する。

### (3) 指導の構想（校内研究との関わり）

本時の課題を、「鎌倉幕府は、武士たちをどのようにまとめていったのか」と導く。

既習事項の確認を行い、それに関連づけて学習課題の設定を行う。課題解決の思考場面では、個人で違いの読み取りを行ったあと、小グループで話し合わせる。小グループの活動は思考を深めさせるとともに、社会を苦手とする生徒への援助としたい。その後、学級全体で発表活動を行い、共有化を行う。以上の学習活動の最後に、個人で学習課題に対する答えをノートに書き、まとめる活動を行う。

#### ① 学習意欲を喚起し継続させる指導方法について。

- ・ 視聴覚機器を有効に用いて、誰にでも分かりやすい資料提示を行う。さらに、発問を視覚的に確認できるようにする。

#### ② 活動について

- ・ 思考力の確実な定着を図るために、個人で資料活用および思考させる。
- ・ 資料読み取りの時間を十分に確保するとともに、学習シートを活用して、資料の読み取りを確実に行わせる。（「わかる」活動の工夫）
- ・ 読み取った内容を、小グループで交流させる。（「できる」活動の工夫）

#### ③ 一人ひとりを見取る方法について

- ・ 各自で学習課題に対するまとめをノートに書かせる。

(4) 展開

段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点(・) ユニバーサルデザイン(◎) 評価(□)
導入 6分	1 前時までの学習内容の確認 2 学習課題の把握	1 平清盛、太政大臣、平氏政権の様子、平氏の滅亡を確認する。 2 鎌倉幕府が長期間続いたのはなぜか、について疑問を持つ。	◎ 視聴覚機器を活用する。 ・ 平氏政権の期間(18年)と鎌倉幕府の期間(140年以上)を対比させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             鎌倉幕府は、武士たちをどのようにまとめていったのだろうか           </div>			
展開 34分	3 学習課題についての予想 4 予想の発表 5 学習課題について資料からの読み取り 6 学習課題について資料から追究したことを小グループで交流 7 グループの発表	3 学習課題について個人で予想する。 4 (例) 領地を与えたのではないか。褒美を与えたのではないか。 5 平氏政権と鎌倉幕府の相違点を資料をもとに見つける。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>「わかる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分時間をかけて資料の読み取りを行う。</li> <li>・ 学習シートに記入する。</li> </ul> </div> 6 資料をもとに見つけた相違点を小グループで交流する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>「できる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料をもとに見つけた相違点を小グループで交流する。</li> <li>・ 学習シートに記入する。</li> </ul> </div> 7 小グループの代表者が発表する。	・ 十分に時間を確保する  ・ 複数の資料から、鎌倉幕府の政治がそれまでの貴族の政治とは異なっていたこと(朝廷とは別の政治・将軍と御家人の主従関係・封建制度)に気付かせたい。 <b>思</b> 武家政権を確立するために頼朝がつくったしくみや行った政策を、平氏の政治とも比較して考察している。 ①平清盛像、年表 ②伝源頼朝像、年表。 ③鎌倉幕府のしくみの資料。 ④御恩と奉公の関係の資料。 ・ 学習シートを活用する。 ・ 共通点をキーワードとして明示する。 ◎ 視覚機器も活用し、全員で確認できるようにする。
まとめ 10分	8 本時の課題に対するまとめ	8 各自でノートに学習課題のまとめをする。  (例)「鎌倉幕府は、将軍と御家人の間に土地を仲立ちとした『御恩』と『奉公』の関係を結ぶことによって、武士たちをまとめていった。」 ・ まとめを発表する。	・ まとめの文頭と文末を提示する。 ・ キーワードを示す。(将軍、御家人、御恩、奉公、土地) <b>知</b> 封建制度のしくみについて理解しており、それを活用して説明できる。 ・ 自分の言葉で表現させる。

単元の指導計画

教科 社会 ( 1年 ) 単元名 中世の日本と世界 1世界の動きと武家政治の始まり

単元の目標		武家による政権はどのように成立して、支配を全国へ広げていったのか、理解できる。		
時	めざすゴール像 「～できる」	「わかる」活動の工夫	「できる」活動の工夫	一人ひとりを見取る方法
1	宋、高麗、モンゴル帝国の出現といった東アジアの様子を理解し、日本との関係を理解することができる。	教科書、世界地図等の資料の読み取りをさせる。小グループで討議、共同思考を行わせる。	東アジアの様子、日本との関係を、ペアで互いに説明し合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・ノートのとまとめ</li> <li>・自己評価シート</li> </ul>
2	武士団がおこった背景、平氏政権が成立し滅亡するまでの流れとその流れの中で武士の力が強大になっていく理由を理解し、説明することができる。	絵巻物などの資料の観察や年表の読み取りをさせる。小グループで討議、共同思考を行わせる。	武士の力が強大になっていく理由を、ペアで互いに説明し合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・ノートのとまとめ</li> <li>・自己評価シート</li> </ul>
3 本時	鎌倉幕府は、武士たちをどのようにまとめていったのか、説明することができる。	平氏政権と鎌倉幕府について比較できる資料を提示し、読み取りをさせる。	平氏政権と鎌倉幕府についての相違点を小グループで交流させる。 学習シートに記入させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・ノートのとまとめ</li> <li>・自己評価シート</li> </ul>
4	承久の乱の概要と乱の後に武士の支配が西国にまで広がっていったことを理解できる。	承久の乱後の地頭の配置などの資料読み取りをさせる。小グループで討議、共同思考を行わせる。	武士の支配が西国にまで広がっていった理由を、ペアで互いに説明し合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・ノートのとまとめ</li> <li>・自己評価シート</li> </ul>
5	鎌倉文化についてまとめ、文化の特徴を説明できる。	金剛力士像などの鎌倉文化にかかわる写真・絵巻物等の資料を読み取りをさせる。小グループで討議、共同思考を行わせる。	鎌倉文化についてどのような文化か特徴をペアで互いに説明し合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子</li> <li>・ノートのとまとめ</li> <li>・自己評価シート</li> </ul>